

子どもを思う
アイメッセージ
子どもを育てる
ウィメッセージ

発行者 公認心理師/社会福祉士 堀川重敏

第15巻 第47号

We メッセージのこと

記事内容はわたし個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

ご意見などの宛先 horikawassw@gmail.com



I と You、二つのメッセージの違いを書きました。I メッセージは子どもへの思いを伝えるのに適した伝え方でした。この時、私たちは意識せずに I メッセージの中で We メッセージを用いているかも知れません。

☆1

子どもの望ましい行為はほめます。

子ども自身でも、結果をほめるのでもなく、その取り組みをしたことをほめることが子どもを育てます。

確かに、結果や子どもの力をほめると、結果を出すための努力を続けるでしょう。

でも、結果を出せない時、自分を責めることがあります。期待に応えようと背伸びし過ぎて、倒れてしまう子もいます。

それでも結果を出し続ける子も、結果を出せない子をバカにするかも知れません。

★2

結果が出せなくても、努力したことをほめれば、子どもは努力を続けるでしょう。

この時、あなただけでなく他の人も認めていることを伝えるのが We メッセージです。

ごほうびにも同じことが言えます。何をほめ、ほうびをあげるかが大事です。自分のためでなく、あなたからほめてもらうた

めに頑張る子や、ほうびを求めて頑張る子にしないように気を付けてください。



ここまで書いたことは、あなたがしてはいけないことを書いた You メッセージです。I メッセージならどう書いたでしょう。

☆3

あなたが子どもに望むのは、信頼できる友だちを得て、自分の力で人生の課題に立ち向かいながら生活できるようになることではありませんか？

だとしたら必要なのは、子どもが自分自身を信じて努力を続ける力ではないでしょうか。出来ないことは出来ないと認め、あなたや先生、友だちの力を借りながら課題に挑戦する力ではないでしょうか。

それにはあなたが子どもに必要なだと思うおこないをほめ、努力することをほめて継続させることだと、わたしは思うのです。結果よりも、取り組んだことを、結果を出すための道筋で努力していることをほめて欲しいのです。

